

## 令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	しゃかいふくしほうじんとつとききん		
	制作団体名	社会福祉法人トット基金		
	代表者職・氏名	理事長 黒柳徹子	団体ウェブサイトURL http://www.totto.or.jp	
	制作団体所在地	〒 141-0033	最寄駅(バス停)	JR大崎駅
		東京都品川区西品川2-2-16		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	にほんろうしゃげきだん		
	公演団体名	日本ろう者劇団		
	代表者職・氏名	江副悟史	団体ウェブサイトURL http://www.totto.or.jp/02/index.html	
	公演団体所在地	〒 141-0033	最寄駅(バス停)	JR大崎駅
		東京都品川区西品川2-2-16		
	制作団体 設立年月	昭和55年 4月		
	制作団体組織	役職員 理事長:黒柳徹子 理事8名 評議員10名 監事2名	団体構成員及び加入条件等 劇団員:22名 劇団代表:江副悟史 顧問:井崎哲也 加入の条件:ろう者または手話のできる18歳以上の男女	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	金田弘明
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	小池紀子
本応募にかかる連絡先	メールアドレス <a href="mailto:info@kyougen.mail-box.ne.jp">info@kyougen.mail-box.ne.jp</a>		電話番号 09080456534	

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	1980年 ろう者による「東京ろう演劇サークル」を発足。 1981年 黒柳徹子より「窓ぎわのトットちゃん」の著作権を受領し、社会福祉法人トット基金が設立。 1982年 トット基金の付帯劇団となり「日本ろう者劇団」と改称 1983年 イタリアで開催された「世界ろう者会議」で手話狂言を初披露 1987年 新しいジャンルの演劇を作ったとして文化庁芸術祭賞を受賞(手話狂言) 2000年 創作視覚演劇「カスパー」において主演の池田大輔が芸術祭新人賞を受賞 2002年 内閣総理大臣表彰受章 2004年 「ギリシャにおける日本文化年2004」に参加し、アテネで「手話狂言」の公演 2015年 ローマ、パリにて国際手話で手話狂言の公演を行う。(文化庁国際芸術交流支援事業) 2019年 首相官邸で手話狂言を披露(安倍総理と障害者との集い) 2020年 国立能楽堂主催公演として「手話狂言」を上演 2021年 東京オリパラ2020『インクルーシブNIPPON Shinagawa発2020能・狂言特別公演』 2021年 第35～36回国民文化祭・第20～21回全国障害者芸術祭参加(宮崎県・和歌山県) 2021年 三宅右近氏と日本ろう者劇団 第31回催花賞 受賞 2024年 パリ日本文化会館共催公演(フランス公演)、デフリンピック慶祝公演(品川区主催) 2025年 第8回全国手話言語市区長会手話劇祭の出演(府中市主催)
	学校等における公演実績	1988年度 品川区三ツ木小学校公演体育館(PTA主催) 同年度 品川区立大崎中学校体育館 演目「二人袴」「しびり」 2005年～2025年度 田園調布雙葉中学校講堂(およそ3年おきの公演) 2009年度 長野県小諸市芦原中学校体育館 演目「梟山伏」「附子」 2021年度 三ツ木小学校体育館 演目「附子」と手話ワークショップ 2024年度 立命館大学、埼玉県富士見市立つるせ台小学校にて手話狂言ワークショップ 2025年度 東京大学多様性包摂共創センター キックオフシンポジウム内で手話狂言公演 埼玉県富士見市立みずほ台小学校、埼玉県富士見市立関沢小学校にて手話狂言ワークショップ
	特別支援学校等における公演実績	2008年度 県立高知ろう学校 手話狂言「附子」  2017年度 中央ろう学校、坂戸ろう学園、大宮ろう学園、明晴学園  2018年度 旭川ろう学校、中央ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園  2019年度 中央ろう学校、葛飾ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園  2020年度 中央ろう学校 ワークショップ7回(12月～2月)、 茨城県立水戸ろう学校 手話狂言「梟山伏」  2023～2024年度 中央ろう学校 手話狂言の公演を行う

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=kHEQZAPZbvs">https://www.youtube.com/watch?v=kHEQZAPZbvs</a>
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: <input type="text"/> PW: <input type="text"/>

別添

あり

【公演団体名

日本ろう者劇団

】

対象

小学生(低学年)

○

小学生(中学年)

○

小学生(高学年)

○

中学生

○

企画名

聞こえる人も聞こえない人も共に楽しむ 手話狂言「附子」

企画のねらい

日本ろう者劇団の俳優による「手話の演技」に、和泉流狂言師の「声の演技」で演じられる古くて新しい手話狂言【附子】を楽しく鑑賞しながら、伝統芸能の魅力を知り、さらなる興味を誘起します。一方で聞こえない人、聞こえる人の共同作業で作上げられる手話狂言の鑑賞から、障害を持つ人への正しい理解を求め、ひいては多様性社会に即した他者との共生と、コミュニケーション能力の向上をめざします。(参考:別添1)

演目概要・演目選択理由

手話狂言「附子」:太郎冠者、次郎冠者、主人の3名(後見2名)  
劇団結成当時より長く演じ続けられている代表演目の一つです。「一休さんのとんち話」の原型であり、小学校の国語の教科書にも採用されていた演目です。したたかに、たくましく生きる中世の人物像が笑いとともに描かれます。(参考:別添1)  
登場人物の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、掛け軸や天目茶碗を壊す時の擬音(効果音)の面白さ等、狂言独自の工夫がたくさん盛り込まれた演目であり、こうした工夫を手話で表現する面白さをも同時に鑑賞していただきます。(参考:別添2)

児童・生徒の参加または体験の形態

・事前のワークショップで習った手話がどのように手話狂言の中で用いられたのか、みなさんに尋ねていきます。  
・狂言の代表的なセリフ「このあたりのものでござる」というセリフを全員で手話で演じてもらいます。  
・さらに理解を進め、全体が二手にわかれて、手話狂言の台詞の掛け合いを演じてもらいます。  
・狂言や手話についてのいろいろな疑問について出演者が丁寧にこたえてゆきます。

児童・生徒の参加可能人数

本公演

参加・体験人数目安

10～500名

鑑賞人数目安

10～500名

本公演演目  
原作/作曲  
脚本  
演出/振付

◆第一部 手話狂言「附子」  
・お話:狂言の歴史や見方、「附子」のあらすじなどを、狂言師が実演を交えながら、わかりやすくお話しします。(20分)  
・手話狂言「附子」の上演:ろう者劇団の俳優による手話の演技に、狂言師が影から声でセリフをあてて、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しく鑑賞していただきます。(20分)  
～休憩(10分)～  
◆第二部 手話狂言ワークショップ  
・ワークショップ:手話狂言「附子」にて、事前ワークショップで学習した手話のなかで、何が用いられたかを生徒に質問します。次に、動物の鳴き声や擬音などの紹介。そしてろう者の演技に狂言師が声をびたりと合わせる作業を舞台上で実演し、狂言の所作・台詞、手話狂言の演技を鑑賞者全員で体験します。(30分)  
・Q&Aコーナー:生徒からの質問に出演者が答えます。(10分)

演出:三宅右近/構成・監修・振付:三宅近成

公演時間

90

分

出演者

お話:金田弘明  
手話狂言「附子」(全8名)  
日本ろう者劇団:江副悟史、小泉文子、砂田アトム、数見陽子、鈴まみ、長谷川翔平、五田市十夢(内3名)  
狂言方と泉流:三宅右近※、三宅右矩※、三宅近成※、金田弘明、小飯塚光生、前田晃一※、高澤祐介※(内5名)  
ワークショップ:(全2名)江副悟史(日本ろう者劇団)、三宅近成※(狂言方と泉流)  
手話通訳:田家佳子、井本麻衣子、小松智美、長谷川さとみ(内1名)  
  
※印のメンバーは重要無形文化財総合指定保持者(三宅右矩、三宅近成は2026年度取得予定)  
(参考:別添3)

演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名

江副悟史(えぞえさとし):日本ろう者劇団代表。テレビ出演のほか、東京オリンピック・パラリンピック関連イベントにも携わり、手話狂言を披露。映画やドラマなどの出演、手話指導・監修にも携わる。  
三宅近成(みやけちかなり):能楽師狂言方と泉流。祖父は人間国宝・九世三宅藤九郎。父、三宅右近に師事。狂言方としての活動の他に、オペラ、現代劇にも出演。手話狂言には自ら手話を用いて日本ろう者劇団の指導にあたる。  
長谷川さとみ(はせがわさとみ):手話通訳士。社会人向け専門学校上級コース講師などを経て、現在、様々な手話通訳の現場に立ち、翻訳活動などを続けている。

本公演  
従事予定者数  
(1公演あたり)  
※ドライバー等  
訪問する業者人数含む

出演者: 10 名

スタッフ: 4 名

合 計: 14 名

運搬

積載量: 2 t

車 長: 4.7 m

台 数: 1 台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度	
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時		13時～14時30分	10分	14時30分～16時	16時
	※本公演時間の目安は、概ね2時間分程度です。						
本公演 実施可能日数 目安  ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月
	20日		15日		10日		20日
	10月		11月		12月		1月
	20日		20日		15日		20日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		140日
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)   <							

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。



別添

あり

【公演団体名

日本ろう者劇団

】

ワークショップの  
ねらい

近くて遠い「ろう者」の存在。  
日本ろう者劇団の講師との交流から、ろう者の現状について正しく理解します。  
また、健常者が当たり前に行っている音声言語以外にも、さまざまな伝達方法があるということを、ゲーム感覚で楽しく考えながら実践してもらいます。

ろう者とのコミュニケーションのあり方を自由な発想で捉えることから、ひいては多様性社会の中での、他者との積極的なコミュニケーションを図る感性を育むことをねらいとします。

児童・生徒の  
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

10～500人(全校)

## ①「ろう者」を知ろう！(20分)

## ろう者は全国に何人いる？

全国にいる「ろう者」の数は100万人。他の障害と比べて外見ではわかりづらい「ろう者」が、実は皆にとっても身近な存在であることを知ってもらいます。



## ②「ろう者とのコミュニケーション方法」を知ろう！(15分)

## ろう者が落としものをしました。どうやって気づいてもらおう？

実際に何人かの生徒によって、耳の聞こえないろう者に何かを伝える方法を実際に試してもらいます。正解は一つではありません。みんなで考えてみましょう。



ワークショップ  
実施形態及び内容

「休憩」ろう者と交流を持ってみよう！（10分）  
身振り手振り、筆談等で積極的に話しかけてみよう！



③ジェスチャーゲーム(20分)  
例えばスイカというお題。これを言葉を使わずに、隣の人に当ててもらおう。

コミュニケーションを取る方法は、言葉だけではなくありません。普段当たり前のように使っている音声言語を用いずに、身振り手振りだけで表現して、人にものを伝えてもらいます。



④「手話」を知ろう！（20分）  
自分の年齢を手話で表現してみよう。

1～10までの数字や、美味しい、不味い等、ごく初歩的な手話を学び、少しずつ文章に組み立てて、表現してみます。手話狂言の中에서도出てくる手話も学びます。本公演で探してみましょう。

⑥さいごに(5分)  
「ありがとう」の手話を学び、皆んなで「ありがとうございました」と手話で挨拶して終了となります。

その他ワークショップに  
関する特記事項等



事前ワークショップでは、特に舞台を設けず、子供たちとの境界をなくし、ホワイトボード（学校所有を拝借いたします）を用いて、手話のさまざまな表現、コミュニケーションのあり方を説明していきます。

手話通訳を介して、時には生徒に質問したり、逆に質問されたりなどしながら、全体とのコミュニケーションを豊かに図りながら進行していきます。

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 日本ろう者劇団 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
会場の設置階の制限	条件なし		主幹引き込み電源容量		30 A以上
舞台設置面積	間口	12 m	奥行	9 m	
	高さ	指定なし	m		
舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応		可
搬入間口の広さ	幅	1.8 m	高さ	1.8 m	
遮光の要否	不要		緞帳の要否		不要
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		50 m以内
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台	
搬入車両の大きさ	車幅	1.8 m	車長	3 m	
備考					

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

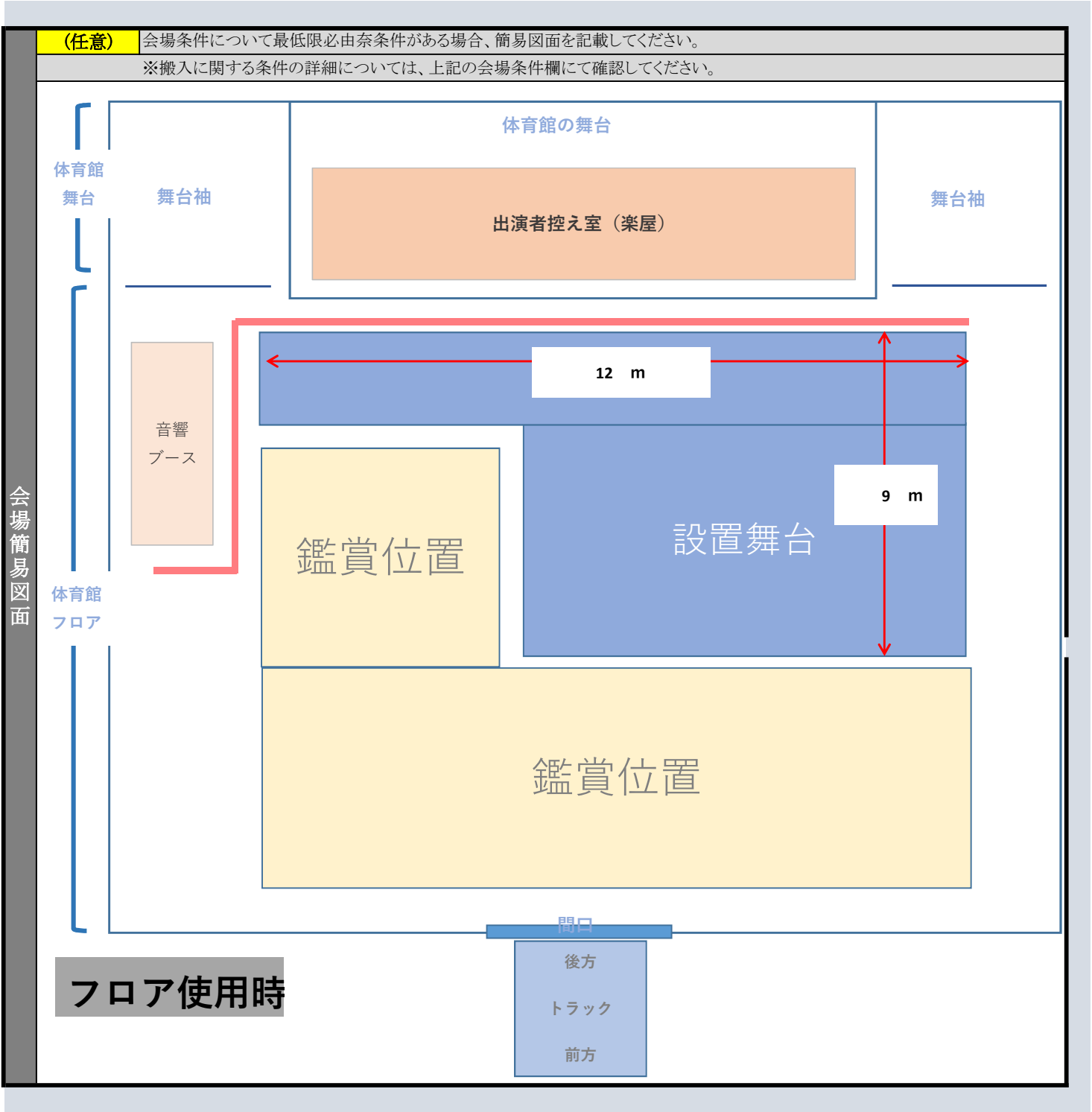
学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	不要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	体育館の形状によって鑑賞人数多数の場合は、ステージ上に能舞台を組んでご鑑賞いただくことも可能です。	
	2		
	3		





別添

なし

【公演団体名

日本ろう者劇団

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

- 1.狂言は能と共に約700年前に成立し、「能楽」としてはユネスコ制定の無形文化財にも指定されている、日本を代表する伝統芸能です。また、手話狂言は約40年前に誕生した歴史を持ちます。手話狂言の鑑賞を通して、日本古来からの伝統芸能への深い理解をもとめ、「もっと見てみたい」というさらなる興味を持ってもらうよう心がけます。
- 2.ろう者と狂言師の二人三脚で演じられる手話狂言がどのように成り立っているかを知ってもらうことから、障がい者と健常者が、より良い形で共生できるモデルとして、作品をご鑑賞いただきます。
- 3.特に事前ワークショップでは、ろう者講師との交流から、障害を持つ人たちへの正しい理解と、ろう文化への関心を高め、また音声言語による当たり前の意思伝達方法を見つめ直し、多様性社会に即して適応できるコミュニケーション能力の向上を目指すことを本事業の目的と捉え、実施してまいります。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

- 1.本公演の冒頭に、狂言と手話狂言の歴史、そして能舞台の特徴や狂言の見方等、どの学年層でもわかりやすい解説をして(必要な際には手話通訳もつける)鑑賞に繋がります。
- 2.事前ワークショップでは、日常的にも用いられる初歩的な手話を習います。「附子」の中でも用いられる手話を、本公演の手話狂言を鑑賞しながら探してもらい、積極的に発表することで、手話への興味を持ってもらいます。また本公演の体験コーナーでは、ろう者と狂言師の講師とともに、全員で手話狂言の一場面を演じてもらいます。
- 3.事前ワークショップでは手話通訳を介して、ろう者の講師と参加者が交流を持ちながら進んでいきます。主に、音声による言葉を発することなくコミュニケーションをとつ方法を模索して、手話がわからなくてもろう者と交流を持つ体験をしてもらいます。この経験が対ろう者に関わらず、さまざまな人々との交流を持てる自信につながります。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

## 【学校との連絡調整について】

- ・採択校決定後、直ちに学校側と電話でヒヤリングを行い、鑑賞人数や会場の規模に応じて、ワークショップのあり方や、能舞台設置における段取りなどをご相談させていただきます。
- ・ヒヤリング後に、事前ワークショップから舞台設営、公演当日までのタイムテーブルを各校ごとに作成し、注意事項等も含めたPDFファイルにて送信いたします。
- ・舞台設営は学校公演を専門とする業者に委託しておりますので、音響、照明、楽屋設営等、全て当方にて行い、学校側の負担はごく軽微です。

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

事前のワークショップではろう者劇団の俳優、手話通訳に狂言師が同行します。その際に、本公演におけるどんな細かい疑問や要望でも相談していただければと存じます。

能舞台は特殊な構造です。舞台をまわり込むように観客席を設けますので、理解度に応じて、学年別の席を提案させていただきます。また手話通訳の必要な生徒には、通常通訳のつかない箇所でも個別に対応いたします。

当団体は、小学校、中学校、高校の学校公演のほか、特別支援学校の公演経験が豊富にありますので、さまざまなご要望にお応えできます。

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

日本ろう者劇団の講師陣の出演する、手話の番組や動画サイトの紹介をすることで、公演後の手話の学びにつなげます。また、当団体の動画チャンネルでは能楽堂で行った手話狂言の公演のアーカイブを公開しています。こちらをご覧くださいことで、手話狂言や狂言への興味を継続的に高めることに繋がります。(URLをプログラムに記載する等)



本格的な能舞台で演じる手話狂言を生徒の目線から  
～ 聞こえる人も聞こえない人も ～

### 手話狂言から学ぶこと

狂言は舞台セットをほとんど用いない、何もない空間である「能舞台」の上で演じられ、その場面は、演者の台詞と動きだけで表現されます。そして狂言は笑いの芸能です。鑑賞者は楽しみ、笑いながら、演者の動きと言葉だけで、気づかぬうちに想像力を働かせ、多くの情景を能舞台に見だしてゆきます。

そして言葉の芸能といわれる「狂言」は、台詞の緩急や抑揚の自在な使い分け、室町以来に培われた発声方法が大きな特徴です。これを手話で演じるにあたって、試行錯誤を繰り返しながら、さまざまな工夫を凝らして演じます。狂言そのままの型・動きに加えられた手話表現に、狂言師がマイクで声をあてる手話狂言は、あたかも手話そのものが声を発しているようだという感想をいただいております。

日本ろう者劇団の俳優と和泉流狂言師との共同作業による、「聞こえる人も聞こえない人も」同じように楽しめる手話狂言「附子」の鑑賞から、古典芸能の魅力を学び、手話表現によるコミュニケーション能力向上をめざします。



手話狂言上演後のワークショップでは、生徒と講師が直接コミュニケーションを図りながら、さらなる手話狂言への理解を深めていきます。最後には全員で手話狂言の一場面を演じてもらいます。

企画のねらい



## 手話狂言 ぶす 附子



ご主人さまから留守番を言いつけられた太郎冠者と次郎冠者。  
主人は手桶を持ち出し、「この中には、その毒氣にあたっても死んでしまうほどの猛毒『附子』が入っているから、気をつけて番をするように」と言いつけます。

『附子』を前に二人は興味津々。  
なんとか手桶の中を見てみようと、  
毒氣に当たらないように  
扇であおぎながら『附子』に近寄り、  
手桶の蓋を開けました。



中に入っていたのは何と砂糖。  
当時砂糖は大変な高級品なので、  
主人は二人に食べられないように、  
中身が「附子」だと嘘をついていたのです。  
砂糖とわかってしまうと、  
たちまち二人は平らげてしまいました。



砂糖を食べてしまった言い訳をしようと、  
二人はご主人の大切にしていた  
掛け軸やお茶碗などのお宝をこわして、  
嘘泣きをします。  
いったい二人はご主人に、  
どんな言い訳をするのでしょうか？



演者は能舞台という何もない空間の上で、附子や掛け軸、天目茶碗など、そこにはないものをあたかも存在するように演技をします。そこには室町以来の伝統を受け継ぐ、厳しい稽古によって培われた型を要します。

手話狂言を実際に鑑賞してみると、古来からの研ぎすまされた型の演技に加えた、手話表現の多彩な魅力に気づかれます。手話の知識がなくとも、観ているうちにだんだんと感覚的に理解できるようになってくる体験をぜひ味わってください。

わかりやすい言葉と、たのしい動きのある手話狂言「附子」は、手話を理解する入門編としても最適な演目です。



リンク先	No.3-①	【公演団体名	日本ろう者劇団	】
社会福祉法人トット基金 理事長 黒柳徹子よりご挨拶				
		日本ろう者劇団のレパートリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにかも手探りの「世界ろう者演劇祭典」(1983年)に参加したイタリアのパレルモが、はるか昔のことのように思えます。あれから、演目も少しづつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃるのも嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。そして、よろしく願います。		
～ 主な出演者・講師紹介 ～				
日本ろう者劇団代表・江副悟史（えぞえさとし）				
		両親・兄ともにろう者の家庭で育つ。2008年、社会福祉法人トット基金(理事長:黒柳徹子)付帯劇団「日本ろう者劇団」入団以降、視覚演劇公演および手話狂言公演に多数出演。2017年より当該団体代表に就任。東京オリンピック・パラリンピック関連イベントにも携わり、手話狂言を披露。演者としては勿論、劇団代表として様々な分野でのろう演劇普及に尽力、現在に至る。その他経歴として、2009年NHK「こども手話ウィークリー」にて最年少キャスターとして抜擢。その後NHK「ハートネット」「ろうを生きる難聴を生きる」「手話で楽しむみんなのテレビ」など福祉番組に多数出演。映画やドラマなどの出演、手話指導・監修にも携わる。NHKBS「しずかちゃんとパパ」では主演・笑福亭鶴瓶氏への手話指導を行い、「第48回放送文化基金賞」にて同番組が優秀賞を受賞、笑福亭鶴瓶氏も演技賞を受賞した。俳優・手話指導のほか、年間50本ほどの講演もこなし、全国各地で活動の場を広げている。		
日本ろう者劇団・砂田アトム（すなだあとも）				
		県立松山ろう学校小学部の時から演劇に興味を持ち舞台に立つ。1999年「カスパー」以降、「永遠の一夜」、「ある砂の家族」、「翼のない天使」に客演。2002年手話狂言「鐘の音」初舞台とともに入団。2003年～2010年各自主公演に出演。劇団外でも映画、舞台、テレビ、ビデオで活躍している。現代劇・時代劇・コメディなどジャンルは幅広く、舞台監督や舞台美術もこなし、イラスト個展も開催。2013年仏クランドイユ演劇祭招待作品「アトムのひとり芝居」は世界各国からの参加者で大盛況、国際的にも活動の幅を広げている。		
日本ろう者劇団・鈴まみ（すずまみ）				
		1996年入団。同年アトリエ公演「デフ・パラダイス」でデビュー。手話狂言、創作劇に多数出演。2003年～2005年 制作も担当。外部出演では1998年イスパシオ「乗合馬車のキップ」、2000年みずノ卵公演vol3「コクトーの遺言」、2002年風の市プロデュース・シアターX提携公演「雨月」、2002年演劇企画室千里魚眼「アルトの黙示録」他、2010年劇団しゅわえもん「ブンナよ、木からおりてこい」、2011年「あらしのよるに」、2017年うごく作品VOL.1、2019年VOL.10、2019年濃淡公演VOL.01に参画。2020年全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画に出演。座・高円寺劇場創造アカデミー12期生講義のみ修了。		
狂言方と泉流・三宅近成（みやけちなり）				
		能楽師狂言方と泉流。祖父は人間国宝・世三宅藤九郎。父、重要無形文化財保持者・三宅右近に師事。3歳で「柑子俵」にて初舞台に出演して以来、2004年「三番叟」、2007年「釣狐」、2012年「金岡」、2015年「花子」といった秘曲、大曲を抜く。能楽堂の能会その他、全国の会館での一般公演、小中高校生対象とした芸術鑑賞教室などに多数出演。狂言方としての活動の他にも、オペラ、現代劇にも出演する傍ら、落語や紙切りなどの演芸やミュージカルとのコラボレーション企画もプロデュースしている。手話狂言には自ら手話を用いて日本ろう者劇団の指導にあたる一方で、2014年の手話狂言公演「初春の会」の「髭櫓」でシテを勤めた。2016年より行われている「手話能」では、能の出演者が手話と同時にセリフを言う全国でも初めての試みが行われ、以降、全公演に間狂言として出演、高い評価を得る。公益社団法人能楽協会会員及び東京支部常任理事。社会福祉法人トット基金理事役員。		

出演者